

心のスイッチ



丹波市立柏原中学校
生活指導通信

No. 二十七
令和六年一月二十二日
(文責 足立 進)

「凍結の朝」登校に気をつけて！

一年を通して一番雪が降ったり、道路が凍ったりするのは、今から厄除大祭の頃までだと思います。

① 部分的に凍結している場所があります

積雪があつたり、完全に凍結している日は、誰もが気をつけると思いますが、川の近くの道や橋の上、側溝の金属製の蓋やマンホールの蓋の上だけ凍っていて、自転車で通った際に転倒するということがあります。

いつも「慎重な登下校を心がけて」と呼びかけていますが、この冬場の時期の登校は特に注意をしてほしいと思っています。

② 時間に余裕を持った登校を！

そんな積雪や凍結がある時期は、特に慌てなくてもよいように、時間に余裕を持って登校してほしいのですが、たまたま、起きるのが遅くなってしまった日に限って積雪や凍結があつた場合は、遅刻することを気にするのではなく、「安全第一」でお願いします。

カイロの始末はきちんと！

寒い日の登下校を思つて、わざわざ家族が持たせてくださっているカイロについて、とやかく言う気はありませんが、そのカイロを投げて遊んでいたたり、使用済みのカイロが、そこら辺に捨てあつて、中身の黒い粉が出ていたりするようなことは、絶対にないようにしてください。

膝掛けの使用について

膝掛けの使用も認めていますので、上手に使ってください。教室移動の際に、膝掛けを頭からかぶっていたりするようなことは避けてください。

ピアスはピアスホール(穴)を

あけるのも禁止です

「夏休みの心得」や「冬休みの心得」には、必ずこんな文章を載せています。

休み中も柏原中学校の生徒です。

髪を染めたりピアスの穴をあけたり

絶対にしないように…。

わざわざ髪の染色とピアスの穴をあけることの禁止について載せているのは、髪を染めたりピアスの穴をあけたりする生徒が、休み中に時々いるからです。この冬休み明けにもピアスの穴をあけてきた生徒がいて、指導をしました。

①ピアス禁止の校則がある理由

本校ではピアスをつけて学校に来るだけでなく、ピアスホール(穴)をあけることも禁止にしていますので、ご家庭のお考えもあつては思いますが、ご理解いただきたいと思ひます。

校則の中には、生徒の思いを反映したのもありますが、多くの保護者の方々の願いを反映したのもあります。「ピアスの穴をあけてはいいない」というルールも、その一つなのです。

また、高校に進学させることだけが中学校教育の目的ではありませんが、一つの大きな課題であることは確かです。

高校が一般的にピアスを禁止にしておられるのに、中学校で自由にしている、わざわざ本校の生徒を先でつまづかせることはできません。

高校入試の当日の夕方に、高校から、こんな連絡をいただいたことがあります。

受験番号〇番の生徒は耳にピアスの穴があいていましたが、何か特別な事情があるのですか？

そんな電話を、私が担当していた学年だけでも二度受けたことがあります。

二人とも、中学校では、ピアスの穴をあけていることに、全く気づけていない生徒でした。つまり、高校は、それほど注意深く見ておられるのだと思います。

ピアスを目の敵にしている訳ではありませんが、中学生でいる間は、ピアスの穴をあけることも認める訳にはいきません。

交通立ち番・あいさつ指導

お世話になっております

PTA厚生部と職員で行っている交通立ち番ですが、次回は二月一日(木)です。お世話になります。よろしくお願いします。

十二月の当番だつた保護者の方々から、次のような報告をいただきました。

・登校中の半数ぐらゐの生徒が、朝のあいさつがしつかりできていました。

・自転車は一列で走行していて、マナーが守れていました。

・ファミリーマートの坂道を下つて登校する生徒ですが、木の根センター入り口の所の橋と坂道が冬場の凍結時には危険なので十分注意して登校してほしいと思ひます。

・あいさつができる生徒が少なくないと思ひました。

・中学校下の南多田交差点は、スピードを出して上から下りてくる自動車が危険です。

・南多田交差点から中学校へ上がる車、下りてくる車があると、自転車通学の生徒が危険だと思ひました。

・交差点から中学校に行くまで細くなつて道で、車同士のすれ違いがある時は、巻き込まれないか心配した事があります。もう中学生なので、危険回避できると思うのですが…。

南多田の交差点から校門までの坂道は、道幅が狭いわりに、登校時は交通量が多く、また下校の際は下り坂でスピードを出しすぎると、大変危険です。油断をしたり、冗談をしたり、安全確認を怠つたり絶対しないようにしてください。

一・一七メモリアル集會から

今年には正月に能登半島で大きな地震災害がありましたので、一・一七の集會が例年とは違う意識で向かうものになりました。

まずは、全校生徒で阪神淡路大震災と能登半島地震で被害に遭われた方々を思い黙祷を捧げました。

次に、校長先生が、二十九年前の阪神淡路大震災が起こつた際の体験を語ってくださいました。避難所や仮設住宅のボランティアに行かれた際のお話や、チームメイトを亡くした昔屋の中学校のバスケットボール部のお話は、実感がこもつていて、心に染みるものでした。

続けて校長先生が「災害時に正常性バイアスが良くない方向に働いた際の恐ろしさ」について話されました。警報器が鳴つていたり、非難が呼びかけられたりしているのに、周囲の海や山が一時落ち着いているのを見て、自分で勝手な判断をしたり、周囲のみんなが避難していないので大丈夫だと思ひ込んでしまつたことが大きな被害につながつていふお話でした。

日頃から正しい知識を持ち、災害時には的確に素早く行動して自分の身を守ることを大切さを教えていただきました。

防災担当の伊来先生からは、二十九年前の映像を見せることで、あらためて地震の恐ろしさが示され、地震が起きた際の正しい行動について教えていただきました。また、家にいる際に地震があつた時を想定した「家族防災会議」を、生徒たちが中心になつて開くように、との提案がありました。

能登半島支援募金 ありがとう

生徒会執行部が、いち早く動いてくれた募金活動が先週の金曜日に終わりました。

新旧の生徒会執行部が、毎朝昇降口に立ち、全校生徒もよく協力してくれていました。ありがとうございます。